DERK and LIGHT　　～外伝～

燐洸蘭歌

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ＤＥＲＫ　ａｎｄ　ＬＩＧＨＴ　～外伝～

【Ｎコード】
Ｎ３４６５Ｄ

【作者名】
燐洸蘭歌

【あらすじ】
あの不思議な体験から早１年。小菅は最近不思議な夢をよく見る。そしてある夜、その夢の正体がはっきりする。その夢の正体は・・・・（小菅の一人語りです）

今日終業式があった。
俺は最近、もやもやとした感じだけどある夢を見ることが多い。
だけど、今日ははっきりした夢が見れそうな気がする。
何でかって？それは・・・・・今日があの経験から丁度1年だから。

夜――

駿に電話を掛けた。

「なあ、今日この後お前のうちに泊まっても平気かな？」

「・・・・は？」

「いや・・・その・・・今日俺の親いなくってそれにちょっと話したいことがあるんだ」

無論親がいないのは嘘だ。ドアを挟んだすぐ後ろに居る。でもそう言わないと駿は許可してくれない。
別に明日夢の事は話してもいいのだけど、それじゃ遅い気がする。

「・・・・・ちょっと待ってろ」

受話器を机の上に置く、カタッと言う音とドアを開ける音がした後

「良いってサ。今から来ればだけど」

「判った。今から行くよ」

「すぐ来いよ」

「了解」

「それと・・・・」

「なんだよ」

「嘘」

「は？」

「嘘下手だな。どうせ後ろに親居るんだろ」

「・・・・・・・・」

「早く来いよ」

やっぱばれてた・・・とにかく受話器を置き、鞄に着替えを詰めて家を飛び出す。

自転車のほうが早いけど生憎(あいにく)自転車を壊してしまい修理に出している所だ。

だから走る。

駿の家の前まで行くと、玄関のとこで駿は待っていた。

「・・・・・おそい」

「しゃあねぇだろ。距離が遠いんだから。しかも自転車じゃないし」

「ふん・・・・母さん、京太きたよ」

「夜遅くにすいません。お邪魔します」

「いらっしゃい。小暮君」

駿の親に挨拶をした後、駿の部屋に行く。ベットと箪笥に机、本棚しかない。机の上の教科書類は部屋の主の性格を現すように綺麗に積み上げてある。何度行っても簡素な部屋。

就寝準備後、例の夢の話をする。

「やっぱ、京太も同じ夢見てたんだね」

「ってことは、駿も？」

「最近になって、何となくもやもやしてるけど・・・僕の場合は微かに声が聞こえるんだ」

「え、まじで！！」

「うん。だけど、何処で聞いた声かわからないんだ」

「けど、今日わかるんじゃないかな？あれから1年だから」

「ま、そうなる事を祈るかな・・・電気、消すぞ」

「判った」

そう言って俺は床に引いた布団の中にもぐりこみ、駿はベットを使わず俺の横にひいた布団の中から
手を伸ばし電気を消す。

気づけば、夢の中しかもいつも見ていたあの夢の。
今日は視界良好。それに誰かの声もこえる。一人ではなく、複数の。

「・・・やっぱり京太の推理どおりだったな」

「おわ！駿。一緒に夢見る事になっちゃったか」

「ま、いいだろ。それより、前」

「？！！！！」

目の前の光景。

それは1年前の俺ら

に、似た人たち

「ブルース、何故だ」

ブロントがとても少年と思えない落着いた声で向かい合って居る（俺の前に居る）ブルースに聞いた

「別に理由は無い。ただブロント、お前達とはやっていく気が無くなった」

ブルースがやはり落着いた声で言った。・・・ブルースってこんな落着いてたか？

「ブルースてめぇ！ざけてんじゃねえぞ！！」

ジルバがブルースに怒鳴る。

「なんとでも言えばいいさ。とにかくお前らを殺ればそれでいい」

ブルースが、弓に矢を番え放とうとしたとき、

「ブルース！！やめろ！！ブロント抑えて！！」

そんな声がどっかから聞こえたのとブロントがブルースを押さえ込んだのとブルースが矢を放ったのが全て同時だった。

ブルースのブロントの頬を掠めただけだがブロントはブルースの事を確実に押さえ付けていた。
そしてまるでそれを待っていたように、詩織利・・・じゃ無かったシオンが降りてきた

「ブロント、サンキュ。さてと、本領発揮かな？」

そしてあの時と同じように剣を構え、

「我、うつし鏡の力受け継ぎし者

その力を解放し、汝解き放たん」

そう言うと剣が光り出し、ブルースを包み込む。ブルースはそこから逃げ出そうと躍起（やっき）になってる。
どうなるか気になったけどあまりに眩しくて目を瞑ってしまった。
光が消えるとブルースが倒れていた。

「ブルース！！」

リンが駆け出しブルースの側に行く。

「？お、俺何してたん・・・」

バシッ！

「痛って！！・・・？」

「バカバカバカ！！心配したんだから」

リンがブルースに平手打ちをした後泣き出し、周りに助けを求めるがみんな微笑むだけで何も言わない
ブルースは余計混乱していた。

「側に行ってみよう」

「うん」

駿に言われて側に行こうとするけど、だんだんもやが掛かってきて進んでいるのかどうかも判らなくなった。
それでもひとつだけ判った事がある。それは、もやが掛かり始めた時彼らが俺等を見て笑いかけていた事。

そのうち、駿ともはぐれてしまった。とにかく、一人で走る。ひたすらに。
今は側に行くよりも、出口を探すために。

「京太、起きろ。朝だ」

「ZZZZ」

「京太起きろ」

「ZZZZZZZZZZZ」

プチッ

「起きろ！！！このボケ！！」

ドカ

「ツッウゥウ・・・・何すんだ」

「起きないから。それよりあの夢・・・・」

「うん。多分俺らの前世の様子だろ」

「かな？でも一緒に見たってことは、他の皆も見てるんじゃないかな？」

「よし。駿、皆のとこ行こうぜ！！」

「そうだな。いこ」

俺と駿は立ち上がり、超特急で着替え家を飛び出した。

外はとても明るく、空は晴れ渡っていた。

（後書き）

どうでしたか？この外伝はもともと本編のほうに入れる予定だったのですが、諸事情によりカットしたので、短編として書きました。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3465d/

DERK and LIGHT　　～外伝～

2010年10月28日07時40分発行